

## 九州におけるオニカッコウの観察初記録

小園卓馬<sup>1</sup>・所崎 聡<sup>2</sup>

1. 〒897-0002 鹿児島県南さつま市加世田武田1348
2. 〒899-0213 鹿児島県出水市西出水町1656

オニカッコウ *Eudynamys scolopacea* は、カッコウ目カッコウ科に分類されている鳥である (del Hoyo etc. 1997). インドからマレー半島, スンダ列島, フィリピンにおいては周年観察され, 中国南部から揚子江流域においては, 夏に繁殖のために飛来する (del Hoyo etc. 1997, Robson 2000, 小林・張 1981). また, 本種は迷鳥として, 台湾や韓国などでも観察記録がある (小林・張 1981). 国内での観察記録は1970年10月, 黒田長久が沖縄県西表島で本種の雌と思われる声と姿を確認しているが, 確証にはいたっていない (日本野鳥の会 1971). 近年では, 春に八重山諸島で観察記録が数例ある (真木 私信). また, 2005年 5月には愛知県岡崎市で観察および撮影され (杉山 私信), 2006年 5月には鹿児島県薩摩川内市で鳴き声が聞かれている (五百澤 私信). しかしどれも, いまだ何らかによる報告にはいたっておらず, 日本鳥類目録第 6版において検討中の種にもあがっていない (日本鳥学会 2000). 筆者らは, 2006年 7月 6日に鹿児島県南さつま市金峰町において, オニカッコウの雄と思われる 1羽 (以下, 当該個体) を観察, 撮影したのでここに報告する.

観察地は万之瀬川河口右岸の県立吹上浜海浜公園である. 公園内の芝生にはマツ *Pinus sp.*, サクラ *Prunus sp.*, タブノキ *Machilus thunbergii*, センダン *Melia azedarach* 等が植えられており, 特にマツは防砂林として多数植えられている. また, 公園の後背地となる海岸線には, マツの林が約 20kmにわたって形成されている.

当該個体 (図 1) は地上から約10mの高さをヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* に追われながら, 公園南端の小さな林に入っていった. 当該個体は林に入ってもヒヨドリ 5羽に囲まれており, 開けたところへは出てこなかった. 筆者が観察中には 2回飛び立ち, そのうち 1回は15mほど離れたマツへ移動した.

大きさはヒヨドリよりかなり大きく, 尾羽は長かった. 全身は黒色で, 風切羽および尾羽は光沢があり青みがかっていた. 虹彩は赤く, ハジロカイツブリ *Podiceps nigricollis* のそれと同じようだった. 脚の色については確認することができなかった. また, くちばしの色についても観察時点では確認できなかったが, 撮影した画像から黄緑色であると分かった. 鳴き声については確認することができなかった.

---

2007年 3月15日 受理

キーワード : オニカッコウ, 観察記録, 九州



図 1. オニカッコウと思われる個体(2006年 7月 6日撮影).

Fig. 1. The observed individual of Common Koel in Minamisatsuma-shi (July 6, 2006).

オニカッコウはオニカッコウ, スラウエシオニカッコウ *Eudynamis melanorhyncha*, オーストラリアオニカッコウ *E. cyanocephal* の 3つに別種として分けられるとの見方もあり, また, *Eudynamis* 属はオニカッコウ, スラウエシオニカッコウ, オーストラリアオニカッコウ, キジカッコウ *E. taitensis* の 4種であるともされている(del Hoyo etc. 1997). そのため, 本稿ではこの属は 4種であるとの見方で議論する.

小林・張(1981), Mackinnon & Phillipps(1993), del Hoyo etc.(1997), Robson(2000)によれば, オニカッコウの雄は光沢のある紺黒色で, 虹彩は赤く, くちばしは明るい緑色で, 脚は灰色とある. 雌は, 体上面が黒褐色で白い斑点と横斑が多く, 尾には黒色および褐色の横斑があり, 体下面は白く, 喉には斑点があるとある. 当該個体の脚の色は確認できなかったが, その他はオニカッコウの雄の特徴と一致した.

スラウエシオニカッコウの雄は光沢のある青紫色で, くちばしは黒い. 雌は頭頂部が赤く, 羽衣には薄青色の縞模様と斑点があり, 暗色のくちばしである(del Hoyoほか 1997). これらは当該個体の特徴とは異なった.

オーストラリアオニカッコウの雄のくちばしは先端から基部まで青灰色である. また, 雌の頭頂部は黒色で, 顔には赤褐色の縦斑が多くあり, 眼の下には白い縞があり, 喉の両側は黒く, 羽衣は細い黒色の縞があり, 体下面は白っぽい(del Hoyoほか 1997). これらは当該個体の特徴とは異なった.

キジカッコウは雌雄とも, オニカッコウの雌と色彩が似ているが, オニカッコウの雄と思われる当該個体とは特徴が大きく違っている(del Hoyoほか 1997, Pizzey 1997).

その他, オウチュウカッコウ *Surniculus lugubris* はオニカッコウよりだいぶ小さく, くちばしは黒色で, 虹彩は茶色である(del Hoyo etc.1997). そのため, 当該個体の特徴とは異なった.

カンムリオウチュウ *Dicrurus bracteatus* はオニカッコウより小さく, くちばしは黒色で太く, 頭頂部と胸部には薄く白い斑点がある(Pizzey 1997). これらは, 当該個体の特徴とは異なった.

アオアズマヤドリ *Ptilonorhynchus violaceus* の雄はオニカッコウより小さく、虹彩は青く、尾はだいぶ短い(Pizzey 1997). これらは、当該個体の特徴とは異なった。

今までにオニカッコウが日本国内に輸入された記録はなく(日本野鳥の会 2005), また、風切羽や尾羽の極端な磨耗、くちばし先端の伸長などは確認できず、飼育されていたような兆候は認められなかった。これらのことから、当該個体は籠抜け鳥とは考えにくい。

以上のことから、当該個体は自然個体におけるオニカッコウの雄であると考えられる。今までに九州でオニカッコウが観察および報告されたことはないため、これが九州におけるオニカッコウの観察初記録であると考えられる。

本報告をまとめるにあたり、資料と助言をいただいた(財)日本野鳥の会自然保護室の浦達也氏、英語資料を翻訳していただいた日本野鳥の会鹿児島県支部の藤崎省三氏、国内での観察情報を提供していただいた五百澤日丸氏、杉山時雄氏、真木広造氏、溝口文男氏に厚く御礼申し上げる。

## 引用文献

- del Hoyo, J., Elliott, A. & Sargatal, J. 1997. Handbook of the Birds of the World: Vol. 4. Lynx Edicions, Barcelona.
- 鹿児島県. 1987. 鹿児島県の野鳥. 鹿児島県環境局環境保全課, 鹿児島.
- 小林桂助・張英彦. 1981. 台湾鳥類図鑑. 前田グラフィック・アーツ, 京都.
- MacKinnon, J. & Phillipps, K. 1993. A Field Guide to the Birds of Borneo Sumatra, Java and Bali. Oxford University Press, New York.
- 日本鳥学会. 2000. 日本鳥類目録改訂第6版. 日本鳥学会, 東京.
- Pizzey, G. & Knight, F. 1997. The Field Guide to the Birds of Australia. Harper Collins Publishers, Sydney.
- Robson, C. 2000. A Field Guide to the Birds of Thailand and South-East Asia. New Holland Publishers, London.
- 高野伸二. 1980. 野鳥識別ハンドブック. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
- 所崎聡・山元幸夫. 1999. 鹿児島県立博物館研究報告 18: 21-42. 鹿児島県立博物館, 鹿児島.
- 財団法人日本野鳥の会. 1971. 野鳥 36: 1. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
- 財団法人日本野鳥の会. 2005. 野鳥保護資料集第18集 バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査 2004. 財団法人日本野鳥の会, 東京.

The first record of the Common Koel *Eudynamys scolopacea* in Kyushu.

Takuma Kozono<sup>1</sup> & Satoshi Tokorozaki<sup>2</sup>

1. 1348 Takeda, Kaseda, Minamisatsuma, Kagoshima 897-0002, Japan

2. 1656 Nishiizumimachi, Izumi, Kagoshima 899-0213, Japan

On July 6 2006 we observed and photographed a bird assumed to be a male Common Koel *Eudynamys scolopacea* in Kagoshima Prefecture, southern Japan.

The bird was considerably larger than Brown-eared Bulbul *Hypsipetes amaurotis* and had a long tail and red irides. The plumage was black, but the flight and tail feathers had a bluish tinge with luster. We did not identify the colors of the legs and beak at the time of observation. However photographs suggest that the beak was yellowish green. We did not hear its calls.

There are no records to indicate that Common Koels were imported into Japan and the bird showed no signs of being kept in a cage. These suggest that the observed bird was not an escaped one but a free ranging male Common Koel. This is the first observation record of Common Koels in Kyushu, southern Japan.

*Key-words: Common Koel, first record, Kyushu*